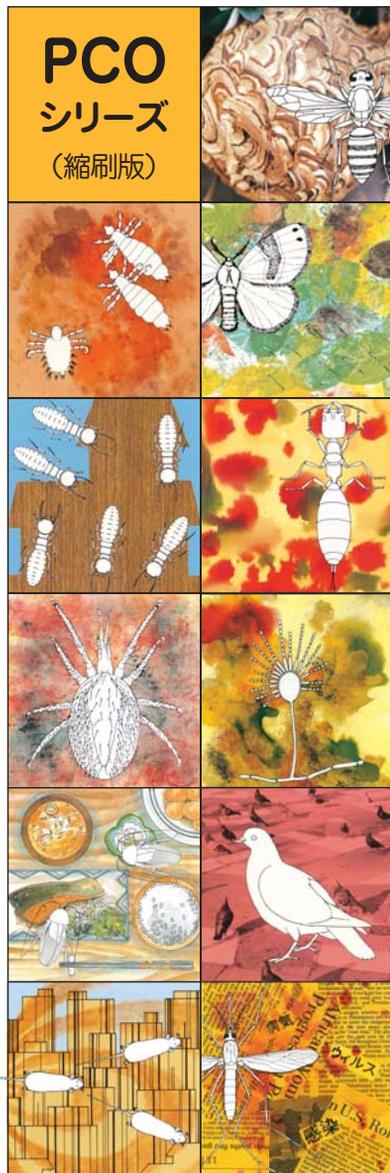


知って得する！

有害生物対策



私たちは多くの生き物から恩恵を受けていますが、快適な生活を邪魔する動物や虫もたくさんいます。それらを英語でペスト（やっかいものの意）と言います。

(社)東京都ペストコントロール協会では、そのようなペストの中から、とくに問題を起こしやすい種類を取り上げ、写真や絵を盛り込んでこのパンフレットを作成しました。紙面の都合で内容も不十分ですが、少しでもお役にたてばと思います。お手元に置いてご活用下さい。

写真

1. (社)日本ペストコントロール協会
害虫スライド集から

撮影者(写真番号)

其田 益成：4, 5, 6, 7, 14, 15, 17, 18,
20, 25

三原 實：8, 9, 10, 11, 12

2. 写真提供(写真番号)

緒方 一喜：23

谷川 力：13

木村 悟朗：16

吉浪 誠：21, 22

渡邊賢太郎：19, 24

元木 貢：1, 2, 3



社団法人 東京都ペストコントロール協会

目次

PCOシリーズ①	シラミ	2
PCOシリーズ②	シロアリ	3
PCOシリーズ③	ダニ	4
PCOシリーズ④	ゴキブリ	5
PCOシリーズ⑤	ネズミ	6
PCOシリーズ⑥	ハチ	7
PCOシリーズ⑦	蛾の仲間	8
PCOシリーズ⑧	アリと甲虫類	9
PCOシリーズ⑨	カビ	10
PCOシリーズ⑩	ドバト	11
PCOシリーズ⑪	蚊	12
	トコジラミ	13

PCOシリーズ① 密かに増えている

シラミ

人にはヒトジラミ(コロモジラミとアタマジラミ)とケジラミが寄生します。アタマジラミは主に幼児・児童の毛髪に、コロモジラミは汚れた衣服の縫い目に、ケジラミは陰毛にいます。いずれも吸血して痒みを引き起こしますが、コロモジラミは発疹チフスなどの病気を媒介します。



アタマジラミ (1)



ケジラミ (2)

対策

アタマジラミは丹念な洗髪が有効です。薬局で人体用の薬剤も売られています。コロモジラミは服や体を清潔にすることです。ケジラミで症状が激しい場合は、皮膚科医の治療を受けてください。

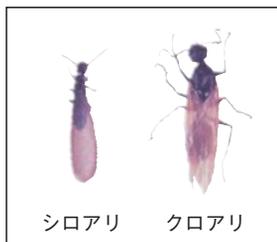


シロアリ

シロアリは木材を食害します。アリと違って腰にくびれがなく、羽蟻は4枚の翅がほぼ同じ大きさです。羽蟻は春から初夏にかけて発生します。柱や風呂場の木部を叩くと、食害があれば空洞がある音がします。



シロアリと被害



羽蟻 (3)

対策

発生があったら駆除はなかなか困難です。床下などは換気を良くし、常に湿気がないように心がけます。家の周囲に木材などを放置しないようにします。被害を受けてしまったら自分で対策するのはかなり困難なので、信用のおける専門業者に依頼して下さい。



浴室土台の被害例



床下木材に薬剤吹付け

ダニ

ダニは種類によって吸血する、刺す、喘息の原因になる、疥癬を引き起こす、病気を媒介する、大量に発生するなどの問題を起こします。

イエダニ (4)
(体長 0.8 ~ 1mm)ミナミツメダニ (5)
(体長 0.5 ~ 0.8mm)コナヒョウウヒダニ (6)
(体長 0.2 ~ 0.5mm)ケナガコナダニ (7)
(体長 0.3 ~ 0.4mm)

対策

種類(被害)ごとに対策が異なります。吸血するダニはネズミ駆除や鳥の巣の除去、刺すダニは畳の乾燥や清掃など、喘息を起こすダニは床や布団の乾燥と、清掃や洗浄によるアレルゲン除去、疥癬を起こすダニは専門の皮膚科医による治療が必要です。森や草むらでダニに刺されて発疹や発熱が出るようなら、医者にかかって下さい。

ゴキブリ

昼間、台所や風呂場など、暖かく、暗く、湿気があり、餌に近い場所に潜んでいます。翅があるのが成虫(親)、翅がないのは幼虫です。卵は細長い豆のような鞘(卵鞘)に十数個から数十個入っています。体は不潔で、病原体をつけています。



クロゴキブリ成虫 (8)
(体長 25 ~ 30mm)



クロゴキブリ 1 令幼虫 (9)
(体長 2 ~ 3mm)



クロゴキブリ老齡幼虫 (10)
(体長 20 ~ 30mm)



チャバネゴキブリ成虫 (11)
(体長 10 ~ 15mm)



チャバネゴキブリ幼虫 (12)
(体長 2 ~ 15mm)

対策

対策には食品の管理が重要です。捕獲するには市販の粘着シートを利用しますが、完全に取り切るのは難しいでしょう。毒餌を利用するには、薬局などで市販の製品を購入します。効果が出るまで少し日数がかかりますので、2週間から1か月くらい配置しておきましょう。

ネズミ

床下、下水溝など比較的地表に近い所で活動するのはドブネズミ、天井裏など比較的高い所で見られる、柱やパイプなどを登るのはクマネズミです。人を吸血するイエダニを運び、消化器系の感染症やレプトスピラ症を媒介します。



クマネズミ



ドブネズミ

対策

食品や調理屑の始末など環境整備が重要です。捕獲には粘着シートや捕獲器を使いますが、使い方に工夫がいります。薬局などで毒餌を売っています。製品によって使い方に違いがありますから、説明を良く読んで使用して下さい。捕獲したネズミや毒餌で死んだネズミは、それぞれの自治体の決まりに従って処理して下さい。



ネズミの通路には特有の「よごれ」がつき、ラットサインと呼ばれています。(13)

ハチ

ハチは益虫ですが被害も受けます。大型のスズメバチはとくに警戒が必要です。しかし、巣も作らない時期に飛んでいるハチが、いきなり人を襲うことはありません。刺されると、ひどい場合は呼吸困難で死に至ります。

スズメバチ (14)
(体長 17 ~ 40mm)アシナガバチ (15)
(体長 13 ~ 27mm)ミツバチ
(体長 12 ~ 13mm)

対策

巣に近づいたり、手を出したりするのはやめましょう。1匹に刺されると仲間が集まってくるので、その場所を離れて下さい。とくにスズメバチの巣の除去は危険ですから駆除業者に依頼しましょう。刺されて気分が悪くなったら、すぐに医者にかかりましょう。軽い場合は、刺された箇所を冷湿布し、抗ヒスタミン軟膏を塗ると効果があります。



スズメバチの巣



アシナガバチの巣 (16)

蛾の仲間

多くは幼虫に毒がありますが、黄色や黄褐色の蛾（ドクガやチャドクガ）は成虫にも注意して下さい。幼虫は体が黒色の毒の毛(毒針毛)で覆われています。イラガは幼虫がカキ、ウメ、ヒマワリなどにつき、触れると毒棘で刺されます。どれも直接手で触れないようにしましょう。



チャドクガ (成虫)



チャドクガ (幼虫) (17)



イラガ (幼虫)



イラガ (成虫)

刺されたら

皮膚についた毒針毛は、こすらず水で洗い流して下さい。痒みや腫れには止痒薬がありますので、薬局や医師に相談して下さい。イラガは刺された部分を冷やします。炎症が出る場合には外用薬を塗布しますが、薬剤については薬局または医師に相談してください。

アリと甲虫類

アリは益虫で自然界では重要な役割をしています。甲虫類は木材を食害する種類(ヒラタキクイムシなど)や、体液に毒を持つもの(アオカミキリモドキなど)、ガスを放出するもの(ミイデラゴミムシなど)がいます。

アリの対策

砂糖や菓子など食品の管理を良くしましょう。薬剤を使うのであればアリ用の餌を配置しますが、全てのアリがこの餌を食べるわけではありません。



イエヒメアリ (体長2~3mm)

甲虫類の対策

クイムシ類は薬剤を用いて対策を行います。ガスを放出する甲虫には近づかないこと、体液に毒を持つ甲虫は潰さないことです。毒に触れたら水で洗って下さい。炎症がひどい場合や目に入った場合は、それぞれ専門の医師に相談して下さい。



ヒラタキクイムシ (18)



カミキリモドキ (19)



タバコシバンムシ (20)

カビ

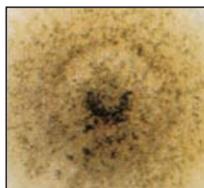
カビは発酵食品の製造には欠かせないものですが、目に見えるカビが食品、革製品、壁、タイルなどあらゆる物にも発生します。人につけば病気を起こします。カビが持っている、物を変質させるという性質は、有益にも有害にも働きます。発生する場所、色など様々です。



ケトミウム



風呂場の天井にはえたカビ



アスペルギルス (21)



ペニシリウム (22)



対策

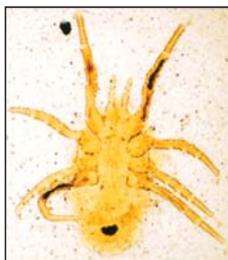
私たちがふだん家庭で目にするカビは有害なものが多く、対策が必要な場合があります。多くの場合、菌叢(カビの集落)があることで気づきます。ほとんどの場合、高い湿度環境が発生を助長します。結露など発生する状況をできるだけ作らないことが必要です。

ドバト

ハトは多くの人に親しまれていますが、病原体を媒介するなど、衛生面で問題を引き起こすことがあります。ホコリとなった糞を吸い込むと、肺炎や脳膜炎を起こすことがあります(クリプトコックス症)。また、巣で増殖したダニに吸血されることがあります。



ドバト



ワクモ(ダニの仲間)

対策

ハトは法律で保護の対象になっている動物です。都民が捕獲するには都知事の許可が必要です。雛がいる巣の除去も同様です。対策はマスクなど保護具をつけて実施しましょう。防鳥器具の取り付けや巣の除去などは、高所作業で危険を伴うので、無理をせずに専門の業者に頼む方がよいこともあります。



フンによる被害状況



防鳥器具

蚊

ヤブカ類は昼間に吸血します。幼虫は空き缶などの小さな容器に発生します。その他の多くの蚊は、夜間に吸血します。幼虫は雨水枙、浄化槽、水田などに発生します。コガタアカイエカは日本脳炎を、多くの蚊はウエストナイル病を、ヒトスジシマカはデング熱やチクングニア熱などを媒介します。



アカイエカ



ヒトスジシマカ

対策

幼虫の発生を防ぐには溜まり水を捨てます。開放的な下水は水が停滞しないようにします。刺されないようにするには、体を露出しないようにし、露出する部分には薬局などで忌避剤(リベレント)を買って処理します。屋内で蚊取線香や液体蚊取を使うとき風があると効き目が半減します。



植木鉢の受け皿 (23)



雨水枙 (24)

トコジラミ

トコジラミ(なんきんむし)は昭和30年代以後、一時姿を消しましたが、最近また増え始めています。吸血するだけで、病気の媒介は知られていませんが、生息している場所では高い密度で発生しているので大きな被害を受けます。トコジラミを知らない人も多く、ゴキブリと間違えるなど、被害を増加させる原因になっています。



トコジラミ (25)

どんな虫で、どこにいる

成虫になると5mmくらいの扁平な褐色をした昆虫ですが、翅は退化しています。昼間は隙間に潜み、夜に現れて人を吸血します。清掃の行き届かない木造家屋などに多いのですが、最近ではホテルや旅館でも被害にあいます。潜み場所の周辺には、点々と黒いシミがついています。



トコジラミの血糞

発行 社団法人 **東京都pestコントロール協会**

〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町2丁目9番8号
サトービル2F

TEL. 03 (3254) 0014

<http://www.pestcontrol-tokyo.jp/>

ネズミ・害虫・カビなどの御相談に
いつでも応じます。
お気軽にお電話下さい。

携帯はこちらから→



社団法人 **東京都pestコントロール協会**は、

有害な衛生動物を防除する専門業者が設立した公益団体です。

ネズミ、害虫のいない清潔な環境づくりのお役に立ちたいと願っております。

「pestコントロール」とは、ネズミ、害虫などの有害生物を防除することをいいます。

- pest (Pest) は、有害な害虫や小動物、つまりネズミ、ハエ、カ、ゴキブリなどのこと。
- コントロール (Control) は、予防したり、駆除したり、つまり防除のこと。

※この縮刷版に掲載されている害虫については、ホームページをご参照下さい。

